

基本理念

安全で良質な水を構成団体と連携して送り続け、県民・市民の暮らしを支える

企業団の現状と当面の課題及び今後の事業環境

企業団の現状と当面の課題

1. これまでの役割（現状）

- 水需要の増加に対応するための広域的な施設整備と維持管理
- 2水系一体的運用による安定的かつ効率的な水道用水供給
- 広域水質管理センターの運営を通じた水源水質管理の広域化

2. 当面の課題

- 老朽施設の着実な更新とそれを可能にするための送水連絡管等の施設整備
- 自然災害や停電等への対策の強化
- 適切な財政運営と人材の確保による事業の推進

企業団を含む5水道事業者の共通課題（H22～）

○水道システム再構築の実現

- ・施設の更新等に併せた統廃合や規模の見直しの中で、企業団の浄水場の活用が見込まれている

今後の事業環境

○水道事業を取り巻く厳しい環境

- ・施設の老朽化が進行
- ・人口減少による給水量及び給水収益の減少、職員数の確保が困難
- ・自然災害の多発、気候変動による水源水質リスクの多様化
- ・サイバーテロなどの新たなリスクの発生

○厳しい環境を背景とした国・社会からの要請

- ・安全、強靱、持続の観点で踏まえた水道事業運営（国・新水道ビジョン）
- ・公営企業として計画的かつ合理的な経営による基盤強化（経営戦略）
- ・基盤強化に向けた広域連携、官民連携、適切な資産管理の推進（改正水道法）
- ・健全な水循環の維持・回復（水循環基本法）

上記を踏まえ企業団を含む5水道事業者に求められること

次の4つの要素を満たす5水道事業者における「最適な水道システム」の実現

- ・将来人口に見合った適正な規模
- ・災害・事故時にも安全・安定的な水道水の供給
- ・計画的更新による施設の健全性確保
- ・高効率・適正なコストで少ない環境負荷

広域水道としての企業団の将来の役割

広域的に整備された施設によって水道用水供給を行ってきた強みを活かし、水道システムの最適化に貢献する

概ね
30年後
の将来像

最適な水道システムの実現に向けて
施設整備の推進と経営基盤の強化により、
広域水道としての強みを最大限に発揮している

I 水道システム最適化に向けた施設整備と運用・管理

I-1. より安全で効率的な水道システム構築に向けた施設整備と運用

- ① 浄水場の増強と管路等の整備
- ② 効率的かつ安定的な水運用と原水の確保
- ③ 浄水処理と水質管理の強化

I-2. 施設の健全性を保つための点検と計画的な修繕・更新

- ① 効率的な点検と計画的な修繕・更新
- ② 施設の維持管理性向上

II 自然災害や多様なリスクへの対応強化

- ① 自然災害・多様なリスクに備えた施設整備
- ② 組織対応力及び関係者との連携の強化

III 経営基盤の強化

III-1. 将来を見据えた財政・事業運営

- ① 長期的な視点に立った財政運営
- ② 事業環境の変化に応じた事業運営

III-2. 事業推進に必要な人材の確保・育成と職場づくり

- ① 人材の確保・育成
- ② 働きやすい職場づくり

取
組
み
の
方
向
性

取組みに当たり重視すべき視点

- 環境への貢献
- 先端技術の導入
- 多様な関係者との連携協力
- 分かりやすい情報の発信